

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

西暦 2021 年 2 月 15 日作成 第 2 版

研究課題名	透視下腹腔神経叢ブロック後のオピオイド減量によるオピオイド退薬症状出現の危険因子の検討
研究の対象	2005 年 4 月 1 日から 2020 年 10 月 31 日までに、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横浜市立大学附属病院、横浜市立市民病院、神奈川県立がんセンターで透視下腹腔神経叢ブロックを施行された患者さんを対象としています。
研究目的 ・方法	透視下腹腔神経叢ブロックは難治性がん性疼痛の疼痛緩和に有効な手段であり、それまで使用していたオピオイドの減量が期待できます。しかし、オピオイドを急激に減量するとオピオイド退薬症状が出現することも知られています。どのくらいのペースでオピオイドを減量していけば、退薬症状が出現しなかったかを明らかにすることが本研究の目的です。研究方法としては、診療録から情報を収集し、統計解析を行います。
研究期間	西暦 2021 年 2 月 2 日 ～ 西暦 2021 年 12 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の 種類	診療録に記載された情報を収集します。 新規に検査や採血を行うことはありません。
外部への 試料・情報の 提供	外部への情報提供はありません。
外部からの 試料・情報の 取得と保管	研究責任者が各施設に直接訪問して情報を収集します。紙媒体の記録は施錠できる保管庫で、電子媒体の記録はインターネットから独立したパソコンにパスワードを設定して保管します。研究責任者が保管する記録の保管場所は、横浜市立大学附属市民総合医療センター麻酔科学教室とします。研究責任者は、本研究に関連する記録を本研究の終了について報告された日から 10 年を経過した日、又は本研究の結果の最終の公表について報告された日から 5 年を経過した日のいずれか遅い日まで適切に保管します。この期間が終了後以降、データについてはハードディスクの消去、記録メディアの破壊を行い、紙データについてはシュレッダーを用いて廃棄します。
研究組織	「主機関」 横浜市立大学附属市民総合医療センター 柳泉 亮太(研究代表者) 「研究協力機関」 横浜市立大学附属病院 長嶺 祐介(研究責任者) 横浜市立市民病院 倉持 智子(研究責任者) 神奈川県立がんセンター 太田 周平(研究責任者)

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57

横浜市立大学附属市民総合医療センター 麻酔科（研究責任者）柳泉 亮太

電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-231-1846